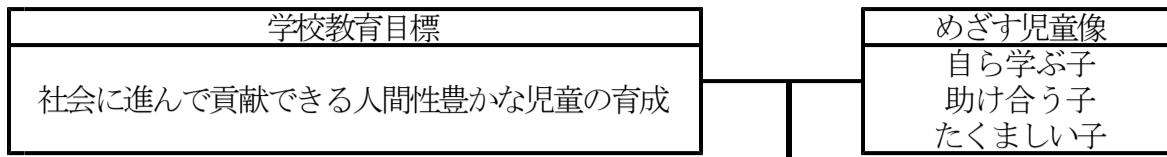


令和5年度 江原南小学校 学校評価総括表

令和6年3月1日 美馬市立江原南小学校



※ 評価 A (十分に達成) B (ほぼ達成) C (やや課題が残る) D (かなり課題が残る)

重点目標1 基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、「書く」「話す」力を育てるとともに、見通しをもって意欲的に学習する児童を育てる。

具体的方策	児童の自己評価アンケートの結果	評価	達成状況○ と次年度の展望◎
<ul style="list-style-type: none"> 漢字・計算学習の確認テストを行う。 タブレットPCを活用し、ドリル学習を行う。 学習活動や日記指導では、主語と述語の関係や既習漢字の指導を行い、言葉の使い方を意識させ表現させる。 最後まで話をしっかりと聴く習慣を身につけさせる。「あったかおひそで聴こう」 自力解決の時間を確保し、自分の考えを明確にできるように、「書く」場面を増やす。 ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 「家庭学習の友」や「家庭学習充実週間」を活用し、家庭連携を図る。 	<p>7 授業中、自分の考えを文章に書いたり、分かりやすく発表したりできている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 漢字・計算学習を繰り返すことで、基礎・基本の定着につながっている。 作文読本を活用することで、積極的に文章を書くことに取り組む姿が見られた。 「話す」力については、全体的には向上傾向にあるが、学年によって差が見られる。自分の考えをもち、まとめることはできているので、それを他者に伝えることができるように、伝え方・聞き方のスキルを高める。
<p>評価基準</p> <p>年度末ふりかえりアンケートで、「自分の考えを文章に書いたり、分かりやすくまとめて発表できた」と回答する児童が、全校75%以上をめざす。</p>	<p>児童アンケートは、肯定的な回答78.0%、否定的な回答17.4%であった。昨年度の肯定的な回答より4.0ポイント増加、否定的な回答は0.7ポイント減少していた。高学年になるにつれ、肯定的な回答の割合が少なくなる傾向が見られた。</p> <p>保護者アンケート「子どもたちには、学年に応じた学力が身につけてきている。」の項目について、肯定的回答をした保護者の割合は81.8%であった。昨年度より3.9ポイント減少していた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 今後も「家庭学習の友」や「家庭学習充実週間」を活用し、家庭との連携を図っていく。さらに、児童が家庭学習を振り返ったり、お互いに賞賛し合ったりする機会を設け、学習習慣を定着させていく。

重点目標2 「やさしくん・ともわちゃんの心」を大切にしながら、いじめを許さない、優しく強い心を育てる。

具体的方策	児童の自己評価アンケートの結果	評価	達成状況○ と次年度の展望◎
<ul style="list-style-type: none"> みまこ宣言や、やさしくんともわちゃんの精神を「いいことみつめたよカード」等を通して、日常生活の中で自分も友だちも大切にすることを育てる。 多様な体験活動や道徳の時間、日々の生活などを通して、思いやりの心を持たせる。 学力の向上を図り、学年に応じた人権についての正しい知識を身につけさせる。 	<p>1 友だちの悪口をいったり、友だちをいじめたりせずに、友だちと仲よく生活している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な意見の割合は全校で90.3%と、基準を達成することができた。 人権授業参観日を6月の早い時期に実施することができ、児童や保護者の方への人権問題への啓発ができた。 学校全体としては、人権ボランティア委員会(いじめ防止子ども委員会)を中心に、子どもたちが主体的に考え、いじめ防止に積極的に取り組んでいく。
<p>評価基準</p> <p>年度末ふりかえりアンケートで「友だちの悪口をいったり、いじめたりせずに、友だちとなかよく生活している」と回答する児童が、全校90%以上をめざす。</p>	<p>児童アンケート肯定的な回答90.3%、否定的な回答6.1%であった。保護者アンケート「人権問題学習をはじめとした、人権意識を高めるための指導がされている」の肯定的な回答をした割合は86.6%であった。昨年度より、10.1ポイント増加していた。また、「決まりを守り、善悪の判断ができるなど、道徳性を高めるための指導がされている」の肯定的な回答は87.5%であった。昨年度より、2.9ポイント増加していた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 学級では、「きみのこと教えてシート」を活用し、児童理解を深め、指導を生かす。 教育活動全体を通して、人権教育推進の徹底を図る。

重点目標3 年間を通して運動の機会を作り、自ら進んで運動に取り組み、安全に生活する態度を育てる。

具体的方策	児童の自己評価アンケートの結果	評価	達成状況○ と次年度の展望◎
<ul style="list-style-type: none"> 遊具検定、水泳検定、なわとび検定、等こより、年間を通して運動の目標を持たせる。 業間休み、昼休みの外遊びを推奨する。 新しく、始業前の運動場遊びの時間を設けた。 体育の時間の運動量を確保し、基礎体力向上を図る。 安全に関する指導を充実し、安全への意識を高める。 生活習慣改善プロジェクト「のびのび教室」による個別指導を実施する。 	<p>4 休み時間や体育の時間には、しっかりと体を動かしている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて、昨年度よりポイントは下がっているが、評価基準の85%は達成していた。 保護者アンケートにおいて、肯定的な回答が増加していた。 なかよし班を活用し、異学年での運動機会を確保する。 「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣の確立を進める。 遊具検定、水泳検定、縄跳び検定など、1年を通して体を動かす機会を設け、体力向上につなげる。
<p>評価基準</p> <p>年度末ふりかえりアンケートで「休み時間や体育の時間には、しっかりと体を動かしている」と回答をする児童が全校85%以上をめざす。</p>	<p>児童アンケート肯定的な回答86.4%、否定的な回答11.6%であった。昨年度の肯定的な回答より1.2ポイント減少、否定的な回答が3.3ポイント増加していた。学年によっての違いはあるが、高学年になるにつれ、運動する・しないの2極化傾向が見られた。</p> <p>保護者アンケート「子どもは学年に応じた体力が身につけてきている」の項目について肯定的な回答した割合は83.9%であった。昨年度より3.9ポイント、昨年度より6.4ポイント増加していた。</p>		

重点目標達成に向けた取り組みの自己評価に対する学校運営協議会委員の評価と意見

●「重点目標1」について

学校の自己評価への評価 妥 当	評価は、評価基準から鑑みて、「B」が妥当だと判断できる。 書く、話す力を育てるとともに、考える力を育むことが大切に思える。その課程で、他者との意見交換や自己主張、他人の意見を聞き取る態度を身につけさせていく取組をお願いしたい。 今の子どもたちは、語彙の少なさを感じる。話すときにもたくさんの言葉を知っている方が楽しく会話できると思う。たくさんの言葉に触れる機会を多く設けていくことにより、自分の考えしっかりと伝え話し合える力の育成にも取り組んでもらいたい。また、読書習慣もプラスになっている点もすばらしいですが、今後もしっかりと取組を続けてもらいたい。 家庭学習においては、家庭での学習習慣づくりを継続し、学習習慣の定着を図ることが重要である。そのためには、これまで以上に家庭との連携の必要性を感じる。今年度、学力向上推進委員会からの提案で実施された「家庭学習充実週間」などの取組を継続して行っていただきたい。
------------------------	--

●「重点目標2」について

学校の自己評価への評価 妥 当	評価は、評価基準から鑑みて、「A」が妥当だと判断できる。 人権学習に対しての保護者の意識が10ポイント高くなっていた。家庭での会話や生活から、しっかりと人権の基本を学んでもらいたい。あいさつの時も相手のことを考えて思いやる心をもって、しっかりと大きな声であいさつできる江南の子になってもらいたい。 人権学習については、子どもの成長に合ったテーマを設け、今後も実践を行ってもらいたい。また、引き続き人権講演会などを行い、保護者啓発も工夫して行ってもらいたい。 良いこと悪いことは、だんだんと理解しているが、差別やいじめの心を自己修復する力や手順が幼少の時から培っていくことが、一生の生き方を左右するように思える。今後も、日々の活動に関する生徒指導の充実が大切であり、子ども達の発達段階に応じた指導を継続して行っていただきたい。 不登校児童への対応としては、日々の教育活動を充実させ、保護者との連絡・連携をとることが対応策の一つであると考えられる。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用や関係機関と連携などを図り、今後も粘り強く行ってほしい。
------------------------	--

●「重点目標3」について

学校の自己評価への評価 妥 当	評価は、児童による自己評価の結果から、「A」が妥当だと判断できる。 今年度の運動会がとてもよかった。児童のみなさんの表情や声、行動に日頃の元気な姿を見た様に思い、楽しむことができる心を感じた。先生方の日々のご尽力の賜だと思った。 運動会を参観したときのことが昨日のことにように見え、心と体がいかに連携しているか、学年が上がるにつれて年齢に応じたの出来ることが自信につながり、自己実現の形成に役立っていると感じた。 学校生活では、朝の運動場開放や休み時間に学年別による体育館開放などを行い、休み時間に体を動かす機会を設けている。今後も1年間を通しての遊具検定・水泳検定・縄跳び検定・マラソン検定など、体力づくりの取組を実施していく。
------------------------	--

●その他教育活動全般について

今年度、登下校時の子どもたちが元気になったように感じる。学校が楽しいのだろうとその姿からも感じるができる。 知育に傾斜しがちで、統合化された精神面の扱いや実行力に裏打ちされた意欲や自己表現力といったものは、案外幼少の時に芽生えるもののように思えるので大切に伸ばしてほしい。また、今後もたくさんの経験の機会を子どもたちに与えられるよう、学校教育目標の達成をめざして学校運営を行ってほしい。 教職員の勤務については、超過勤務、休日出勤を余儀なくされる実態があり、ワークライフバランスのとれた生活が行えるよう働き方改革を継続し実施してほしい。
--

参考資料及び添付資料

※参考資料 学校要覧 学校運営のしおり 学校評価ガイドライン 学校評価システムの充実に向けて	※添付資料 児童向けアンケートおよびアンケート結果 保護者向けアンケートおよびアンケート結果 教職員向けアンケートおよびアンケート結果 「学校評価アンケート」の結果について 学校評価アンケート自由記述について
--	---